

ダム
だより



水のわ

第111号

平成29年12月

長崎県石木ダム建設事務所

住所 東彼杵郡川棚町百津郷394-2

電話 0956-82-5109

ホームページ

石木ダム建設事務所 で 検索

もしくは、右QRコードから



「今、考えよう。多発する水害とダムの役割」講演会



11月12日（日）、川棚町中央公民館において「今、考えよう。多発する水害とダムの役割」と題した講演会を開催し、多くの方々にご来場いただきました。

この講演会は、諫早大水害から60年、長崎大水害から35年の節目となる今年、防災意識の向上とダムへの理解を深めることを目的に、石木ダム建設促進川棚町民の会と県が共催で開催したものです。

講演会では、永田様から「近年における局地的大雨の傾向の強まりと日頃の心がけ」について、田河様から「大水害が発生した場合の実体験」について、星野様から「水害を防止・軽減するためのダムの役割」についてご講演をいただきました。（詳細は裏面を参照ください）

開会挨拶 ～石木ダム建設促進町民の会 西坂会長～



近年、雨の降り方や気温の上がり方が極端になり、いつ、どこで甚大な被害が起きても不思議ではないといわれています。本日の講演は、災害時に警戒を呼びかける多くの情報をどう理解し、防災に活かせばよいかを知る良い機会となると思います。また、水害の体験談を聞き、水害の恐ろしさ、怖さを耳にすることは私達にとって貴重な財産になります。ダム建設を巡っては様々な考え方がありますが、ダムの機能・役割について学ぶ機会をいただけたことは、皆さんが知識を深め、理解をいただく機会ではないかと思っており、最後までご清聴いただきますようお願い申し上げます。

閉会挨拶 ～長崎県土木部 岩見部長～



本日は、講師の皆様から、貴重で意義のあるお話を大変わかりやすくお話いただきました。本年7月には九州北部豪雨が発生しましたが、そのときに壱岐市でも集中豪雨災害が発生しており、昨今は、大雨による災害がどこで起きてもおかしくない状況にあります。県には、地域の皆様の安全で安心な暮らしを守るという責任があり、現在、佐世保市とともに石木ダムの建設を進めております。地域の皆様のご理解・ご協力を、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

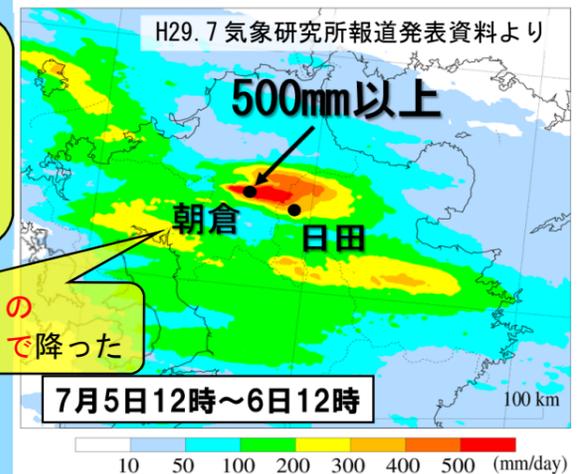
～ 「今、考えよう。多発する水害とダム役割」講演会の概要 ～

①九州北部豪雨などにみる近年の局地的大雨 気象予報士 永田 健太郎 氏

地球温暖化の影響により、近年、“大雨が降る日”と“雨が降らない日”がともに増加しており、大雨災害から身を守るためには、日頃からの備えておくことが大切ということをお話いただきました。

平成 29 年 7 月九州北部豪雨の概要

24時間積算降水量



大雨災害から身を守るためには…？

- ② 地域の災害リスク(身の回りに潜む危険)を確認しておく
- ② 災害から身を守るための知識を得ておく(情報入手)



災害への心構え

「自分は大丈夫」とは思わない！

災害は「まさか」ではなく

「いつか」起きるものと認識せよ！

- ① 避難場所は？ 避難ルートは安全？
- ② 防災情報の入手方法は？(ラジオ、携帯、防災無線など)

朝倉では、平年の7月の約1.5倍もの雨が1日で降った

②豪雨災害の恐ろしさ～諫早大水害の体験談～ 体験者 田河 文乃 氏

大水害で濁流に飲まれながらも生き残られた実体験をもとに、水害の恐ろしさについてお話いただきました。最後に、何事も最後まであきらめずにはいけないという貴重なメッセージをいただきました。

被災当時19歳。当日は、大雨の中、用事があり同僚宅に入ったところで、そのドアから水が流れ込んできた。とっさに雨戸を蹴飛ばして外しつかまったが、気づけば家と一緒に流されていた。新幹線のような速さだった。

目の前を流されている人から助けを求められても、自分も必死で構ってられない。赤ん坊を抱いた母親は、男の人から「子どもを捨てろ」と怒鳴られていたが、結局一緒に流されていった。その男の人の声は、今も耳を離れない。

さっきまで下流に流されていたと思っていたら、今度は上流に逆向きに流され始めた。肉が削がれるような感覚だったが、必死にしがみついていた。

夜が明けようやく助かり、避難所で寝込んでしまっていた。その後の家路への道は、黒く腫れ上がった裸の遺体のごろごろしていた。家に着くと、自分の通夜の準備がされていた。後日、6人の同僚が行方不明と聞いた。3人は死亡、2人は未だ行方不明。水害後、河川や河口部の整備が進んだためか、現在までの50数年、諫早市街に大水が出たことはない。

皆さんには、「人生、最後まであきらめずがんばろう」ということをお伝えしたい。



③洪水時のダムの活躍 ダム愛好家 星野 夕陽 氏

ダムは、河川の氾濫を防ぐためにがんばっており、ダムの有り無しによって、下流域の被災の大きさに差が出る。仮に想定外の大雨が降っても、避難するための時間を稼ぐことができるとの話をいただきました。

ダムの有無によって、下流域の被害に差が出た事例 ～滝ダム(岩手県)～

長内川(滝ダムあり)



久慈川(ダムなし)



ダムが水位上昇を遅らせた事例
めおとだけ
～男女岳ダム(岩手県)～



石木ダムに対するご質問、ご意見等がありましたら下記連絡先にお寄せください。

長崎県 石木ダム建設事務所 電話 0956-82-5109
土木部河川課 電話 095-823-3280